

平成29年度「学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解(心のバリアフリー)の推進事業」成果報告書

団体名	鳥取県
-----	-----

I 概要

1 事業の概要

①事業のねらい

- ・全ての子どもが多様性を尊重して共に生きる態度の育成
- ・運動スポーツの充実等、健康で豊かな生活の実現に向けた取組の継続
- ・在学段階での同年代とのつながりをベースにし、生涯にわたって地域とつながりを持ちながら運動やスポーツに親しむことができる環境づくり

②事業内容

モデル地域を設定し、特別支援学校と中学校間で、ゴールボール及びフロアバレー等の障がい者スポーツを通じた交流及び共同学習を実施した。

あわせて、障がい者トップアスリートを招いての交流活動や、中学校生徒や両校の教員を対象とした事前学習の実施、生徒の変容を明らかにするための評価方法の検討等を行う。

鳥取県教育委員会は、モデル地域への助言、調整と県内への周知を行った。

2 事業の成果

①事前学習の工夫

生徒に対する事前学習に先立ち、青翔開智中学校教員と鳥取盲学校教員との間で、フロアバレーを通じて実施した。教員が事前に体験をすることで、アイシェードをつけて動くことの大変さと同時に声を掛け合うことの大切さを実感することができ、この時の実感が交流の中で生徒たちへの助言として生かされた。

また、児童生徒も自身が体験することにより、相手の立場に立って交流及び共同学習に臨むことにつながった。

②教育課程への位置づけ

鳥取盲学校、青翔開智中学校において教育課程への位置づけを行い、年間を通じた計画的な交流及び共同学習の実施ができた。

③生徒の変容

交流の様子については、フロアバレーやゴールボールをチームで活動する中で、特別支援学校生徒、中学校生徒が対等な立場で助け合いながら活動することができ、生徒同士が自らやりとりをし、仲間の気持ちを考えてプレーすることが自然に行われるようになった。そのことによって、お互いを仲間として認め、もっと一緒にスポーツを楽しみたいという気持ちの高まりも見られた。

また、障がい者アスリートを招いての交流は、トップアスリートのプレーを間近で体感することにより、特別支援学校生徒、中学校生徒の双方にとって、素直にすごいと感じ、多様な価値に気付くきっかけとなった。

本事業を活用した交流及び共同学習を通じて、特別支援学校と中学校生徒双方に、同年代の仲間としての絆が深まるとともに、障がい者スポーツを積極的に楽しみたいという姿が見

られるようになった。

その結果、鳥取盲学校の学校祭で、青翔開智中学校とフロアバレーの対戦を行ったり、中学校生徒より特別支援学校へ年賀状が届いたりなど、生徒同士の関わりの広がりも見られた。

④評価の工夫

中学校では、生徒の自己評価や事前事後のアンケート等を取り入れたことにより、生徒の自己の気づきを促すことができ、また、生徒の変容を丁寧に捉えることができた。

また、特別支援学校においても、観点を設けて生徒の自己評価を行うことで、交流及び共同学習を通じた生徒の成長を明確にすることができた。

⑤事業の周知

取組の成果については、県内の幼稚園・保育園・認定こども園・小学校・中学校・高等学校、特別支援学校の教員が集まる研究大会において発表した。

また、特別支援学校の管理職が集まる特別支援学校運動・スポーツ推進協議会においても情報提供を行った。

3 事業の課題とその解決のために必要な取組

本年度、本事業の取組の成果等について周知を行ったが、鳥取県の交流及び共同学習の充実のためには、継続的に、より広範の対象に周知していくことが必要である。

今後は、交流及び共同学習のリーフレットに本事業の成果を掲載したり、ホームページへの掲載をしたりして普及を図っていきたい。

また、モデル地域においては、本事業終了後も交流及び共同学習の充実が図られることが必要である。

事業終了後においても、学校への計画訪問等を通じて、継続的に助言や情報提供等を行い、本事業の成果が学校や児童生徒へ還元されるようにしていきたい。

※鳥取県においては、法令及び条例・医学用語・固有の名称等の表記を除き、障害を「障がい」と表記。